

# うきたむ

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高畠町大字安久津 2117 TEL 0238-52-2585  
FAX 0238-52-4665

<http://www.pref.yamagata.jp/ky/shakai/222600/top.htm>

## 第24号

### 2004.11.3



▲ 八戸市・根城にて (御所野遺跡と八戸への旅) 6月26・27日

## 歴史を歩く楽しみ

川崎利夫

わたしは年に一〇回ぐらい歴史の旅に出る。資料館やうきたむ考古の会の「遺跡の旅」に加え、有志による古都や古寺めぐりがある。旅の最中も帰ってきてからもいつも充実感いっぱい、心が何かしら豊かになったように思う。

それが自分なりに新しく発見したり、遺跡にあつて感動したりすると、たとえようもない喜びを感じる。

五年ほど前、出雲を歩いた。松江市に入ってまず弥生時代の巨大な遺跡である田和山遺跡にハイヤーで行った。発掘途中でそのうえ休みであったから大方はシートがかぶせられていたが、頂上の神殿のような遺構を目のあたりにした時、日本歴史はじめての戦争の跡の片鱗をみた。その後八雲立つ出雲風土記の丘周辺を歩き、資料館にも足を運んだ。額田部臣の鉄剣銘文で知られる岡田山一号墳や高い本殿をもつ神魂神社も拝した。夕刻松江城から夕映えの美しい宍道湖を眺め、そのほとりの居酒屋へ入った。土地の人と歴史を語り合うのも楽しい。

遺跡を歩き、疲れた身体を温泉にひたつて休め、そして酒を酌み交しながら考古や歴史談議に花を咲かせるのは人生至福の時である。歴史や考古の旅は、その臨場感がすばらしいし、その景観が何よりえがたい。飛鳥の旅も、一木一草、万葉のロマンに思いを馳せ感動がとまらなかつた。歩けなくなつたらどうしよう。その時はまたその時であらう。

# 経に托した人びとのねがい

第十二回企画展「埋められた経 こめられた願い―やまがたの経塚」が、いま開催されている。県内の主要な経塚の資料が一堂に展示されるのは、初めての試みである。これを通して日本人の心のあり方と信仰の歴史をあらためて考えてみる契機になれば幸いである。

## 稀有なる資料の散々

展示品のなかには、日本全体からみても珍しく稀な資料がある。

埋経の経塚から、紙に書写



▲ 経塚のレプリカ (本館製作)

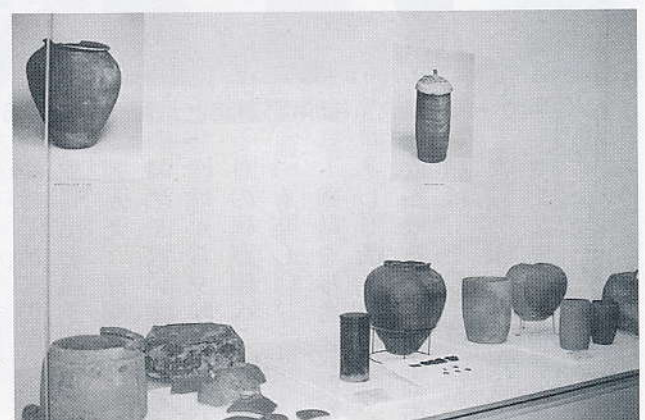
された経巻が発見されること  
があつても、大方は腐朽して  
開くことができない。中山町  
滝から偶然発見された銅製の  
経筒と壺に入っていた経巻が  
工事現場に容器の破片とともに  
に散乱していた。その中の二  
巻を開くことができ、  
長い和紙に朱書きで書き  
こまれた妙法蓮華経であ  
ることがわかった。丹念  
に調べれば、あるいは書  
写された年号も判るかも  
しれない。白鷹町笠松山  
一号経塚の紙片も、下部  
のみ保存処理されたもの  
が展示されている。  
木製品は腐るため残る  
ことは稀であるが、遊佐  
町金保経塚の木製経筒が  
完全な姿をとどめ、円筒

形の外容器とともに並べられ  
ている。全国的にも二、三の  
例しかない。

礫石経の遺跡は「大乘妙典  
一字一石供養塔」などの石塔  
を伴い江戸時代に盛んに造ら  
れた。今のところ中世までさ  
かのぼる資料は全国的にも少  
ない。天童市高野坊の墨書礫  
は、応長元年(一一三一)鎌  
倉時代の年号が見え、成生庄  
で一向上人の二七回忌の供養  
を行なった際に埋納されたも  
の。仏教史や地域史上きわめ  
て貴重な資料である。

## 人びとのねがいを知る

経塚は末法思想によつて営  
まれたものであつたが、人び  
との熱烈な浄土へのあこがれ  
を表し、極楽への往生を願つ  
たものに変わる。そして中世  
には、全国六十六国の霊場を  
めぐり、納経する「廻国聖」  
の経塚が流行する。  
そして小石に法華経の一字  
ずつを書き埋納する礫石の経



▲ 企画展の様子

げられ、関心を持つ人にとつては、貴重な冊子である。  
また期間中に、次のよ  
うな公開講演会も開催さ  
れる。  
日時…十一月一日(日)  
午後一時より  
場所…本館研修室  
・「東日本の経塚の地域  
性」  
・村木二郎氏 (国立歴史  
民俗博物館)  
・「やまがたの経塚」  
川崎利夫 (本館)

## 貴重な図録の発刊と 公開講演会

企画展にちなんで、県内の  
経塚資料を網羅した図録が発  
刊された。すでに全国の研究  
者より注文が殺到しており、  
好評である。経塚の所在地や  
これまでの研究文献目録もあ

## 資料館近くの山にも 経塚が

考古資料館のすぐ西側の山  
にも礫石を埋めた経塚があつ  
た。近くに住まわれる深瀬吉  
男さんが発見した。  
その下には、磨崖板碑が四  
ヶ所の岩に彫られ、近世の墓  
が立ち並ぶ。その上の頂上ま  
では、いたるところ削平さ  
れたところがあり、中世の墓  
地と考えられる。  
山頂のやや小高いところ  
に、礫石がたくさん散らばつ  
ている。一字一石の経塚であ  
ることは間違いない。

# 紅葉のなか小田島庄を歩く

## ― 秋の遺跡めぐり ―

今年の「秋の遺跡めぐり」は、天童市の北部から東根市東部をまわった。参加者は三三名で、マイクロバスとワゴン車に分乗。

まず天童市原崎地区の県内最大の板碑をみた。東北最大の板碑で、鎌倉後期の造立と推定される。成生庄の政所から若松観音に向かう道に立っている。当時の歴史背景につ

いて思いおこされ、興味深いものがある。

その後、山間部に入り、沼沢の大仏をみる。この小さな村に、巨大な中国風の釈迦如来仏像があるのは不思議である。次に大森山の県内で数多い磨崖仏をみる。大森山山頂からは多数の経塚が発掘されており、中世の地域霊場であった。

### 「東の杜資料館」

昼食後、「東の杜資料館」を見学し、大げやきで知られている東根古城跡とその周辺をゆったり散歩して、中世の往昔に思いをはせる。普光寺の梵鐘は、正平一年南北朝期に小田島庄を拠点に覇を競った平長義寄進の名鐘。

### 「六田の石鳥居」

ついで庄の総鎮守ともいわれる若宮八幡宮に詣で、最後は六田の石鳥居をゆつくり観察して、予定通り一日の遺跡めぐりを終了した。紅葉のなか秋の陽射しを浴び、心が豊

## 拓本に親しむ



### 失われたものを知る

拓本は、中国で発達し、いまはヨーロッパにも普及した金石文などの文字や紋様を複写したものである。土器の文

様や鏡の背文など小さなものから、梵鐘や古碑・石塔銘文など、墨拓によって複写されたものである。

### 「山寺立石寺の天養元年如法」

経所碑は、国指定の重要文化財であるが、その後折損して数字が不明であった。ところが江戸時代に市川米庵の採

博物館にあったために、いま全文を知ることができるともいえる。また、

亀岡大聖寺に、東北でも随一と言われる永仁四年の名鐘があったが、昭和二六年に錆潰され失われてしまった。この鐘の銘文や上帯の文様は、先人による拓本によってうかがうことができる。

このように現物が失われても、拓本があればその姿に接することができる。古碑の拓本がかなりの高値で売買されているのも、その価値の高さによってであろうか。

### 考古資料の拓本

写真とともに考古資料の採本は不可欠である。微妙な文字や文様をそのまま写しとることができるともいえる。また、明瞭でない文字も拓本によって読みとることができる場合がある。

最近では書道をやっている人々からも注目され、その趣や雅致が評価され、書幅として活用されることも多い。魚

拓や葉拓も見かけることが多いが、考古における拓本とは若干違うところがある。

### 拓本への習熟

もちろん拓本はだれでもできるが、やはり上手な拓本をとるには、適切な方法と技術、経験による習熟、それに用具の準備が必要である。用紙やタンポ、墨肉（拓本墨）の吟味も必要であるし、その方法も習熟を要する。

そのため、初歩の拓本技術を知ってもらうために、次のような拓本の体験講座を行なうことにした。どうぞ多くの方々の参加を期待し、今後は実地研修なども行なう予定である。

### 体験講座

## 「拓本をとりこむ」

日時…一二月一八日(出)

九時より一二時まで

場所…本館研修室

参加費…五〇〇円

持ち物…タオル・エプロン

または作業着

申込み締め切り…

一月二八日(日)

## 戦国期の堅城

# 舘山城

たて やま じょう

舘山城は、山形県内の中世史や城館研究において、注目を集め、議論も多い遺跡の一つである。

米沢市舘山地区、大樽川・小樽川の合流地点にある。水

力発電所のパイプが目印であるからともわかりやすい。

一四世紀から一六世紀にかけて南奥羽に覇を唱えた伊達氏に関連する城館であること

では意見の一致を見ているが、その意義については意見が分

かれています。最も重要な拠点だとか、

つだとか、米沢における戦闘用の城だとか、お

殿様の隠居所だとか。東西三五〇メートル、南

北(最大)一五〇メートル。大きな山城でただ

ものではない。現在米沢市ではその北側部

分(舘山北館)で発掘調査を継



▲ 国道121号線からみた舘山城南端部

続的に行なっている。それによれば、伊達氏の時代にはかなり重要な拠点であったことは間違いないという。ならばそれで決着かと言え、「ちよつと待て」の声が掛かる。百家争鳴、この議論は米沢市史に詳しい。

舘山城は、岬のように山がせり出したところを大きな堀で区切り、上から見るとシヨートケーキみたいな形をしている。国道一二一号線はそのすぐ下を走っており、見上げると確かに上が平らになっている。

近くで見ると奥まった、ちっほけな感じを受けるが、少し距離をおいて見通しの良いところで舘山城を見るとなかなか立派。城は多くの人にとつては「見る」もので、「暮らす」ものではない。見た目の立派さは大事なポイントだ。決着のつかない舘山城問題。米沢の中世を考える上で大事な遺跡である。

今は、閑静な住宅とりんご畑に囲まれ、深い緑に覆われている。

## 我が館の展示品⑭

ちゅうこうらんめんけん

## 西町田下遺跡の中空円面硯

西町田下遺跡は米沢市塩野に位置し、国道一二一号道路改良工事に伴い調査された遺跡である。今回は、中空円面硯という珍しい硯を紹介する。

円面硯は中国で発明された丸い形の硯で、日本へは五世紀頃に朝鮮半島を経由して伝わった。日本でも律令制の開始によって七世紀初めには大阪府陶邑窯跡群などで生産され、官衙や寺院に供給された。そして七世紀後半には、地方の窯でも食器類と一緒に生産された。

今回紹介する円面硯は内

部が中空となっており、口径11・8cm、底径8・6cm、器高4・4cmである。肩部、中央部に櫛描波状文がめぐり、肩部に直径15mmの穴があげられている。摘みもあり5mmの小穴があげられている。七世紀前半から中頃



▶ 西町田下遺跡の中空円面硯

の製品と考えられるが、置賜地方の須恵器生産は七世紀後半の高島町高安窯跡が最古であり、この硯は他地域で生産され持ち込まれたものと考えられる。

西町田下遺跡からは他にも七世紀中頃から八世紀中頃の円面硯が見つかっており、官衙関連遺跡の可能性を示唆している。道路遺構・河川跡の検出から駅家・水家の可能性も指摘されている。